関係者各位

スーパー耐久シリーズ Rd.3 オートポリス戦レース報告

7 月 27 日～28 日、スーパー耐久 2024 Rd.3 AUTOPOLIS 5 時間レースが開催され、7 クラス 38 台が参加し、TEAM ZEROONE からは 25 号車 26 号車の 2 台が参加した。日産メカニックチャレンジの活動としては、日産愛媛自動車大学校の学生が 8 名、日産販売会社のテクニカルスタッフ(TS)は 6 名が参加し、レースに携わった。

■予選
7/27(土) コースコンディション：ドライ
今大会も A ドライバーと B ドライバーの合計タイムで予選順位が決まるタイム合算方式の予選となった。25 号車は植松選手、26 号車は大塚選手が担当し、A ドライバー予選が始まった。植松選手は、1,59.385 記録。大塚選手は、1,57.861 のクラストップタイムを記録。B ドライバー予選では、松田選手が 1,56.860 と好タイムを記録し、クラス 4 位獲得。26 号車は、富田選手は 1,56.847 を記録し、ポールポジションを獲得。26 号車は 3 戦連続のポールポジション獲得となった。

■決勝(5 時間レース)
7/28(日) コースコンディション：ドライ
今大会は唯一の九州大会という事で天候にも恵まれた。25 号車は A ドライバー植松選手、26 号車は B ドライバー富田選手がスタートを担当。25 号車はウォームアップ走行中にエンジン系のトラブルが発生したが、決勝前グリッド上で点火系の部品を交換し、無事午前 11:00 に、真夏の 5 時間レースが始まった。2 台共に順調にスタートを切るものの、25 号車は後続の#885 に先行されてしまう。さらに、19Lap のところで ST-X #33 に後方から追突されてしまうがマシンは大事に至らず走行を続けた。26 号車はスタート直後からライバル#52 とトップ争いを展開。さらに、後続の#20 も差を縮めトップ 3 台のバトルが繰り広げられる。しかし、開始 1 時間後、1 コーナーで#52 と#20 が接触し、#20 が大クラッシュ。#20 は大破し、セーフティカー(SC)が導入される。26 号車はこのタイミングでピットインし、A ドライバー 大塚選手に交代。25 号車は A ドライバーの最低義務周回数を消化

し、SC 中にピットイン。B ドライバー 松田選手にドライバー交代。1 時間 20 分が経過したところで、SC が解除され走行再開。25 号車松田選手は快調な走りで#111 をオーバーテイクし 5 番手へポジションアップ。25 号車はトラブルを抱えながらも順調に周回を重ねたが、残り 2 時間 20 分のところで佐藤選手に交代し、走行を続けるものの、エンジン系のトラブルが発生してしまった。リペアエリアでマシン修復を終え、再び佐藤選手がハンドルを握るが再度トラブルが発生したため、悔しくもリタイアとなってしまった。26 号車は、残り 2 時間 36 分のところで D ドライバー 荒選手にドライバー交代し順調に走行を重ねる。そして、残り 1 時間 10 分のところで篠原選手にバトンを繋ぎトップを走り続けるものの、ライバル#52 のタイヤ無交換作戦により、トップを奪われる。最後まで諦めず粘り強く走行を続けたが、僅差で届かず結果は 2 位となった。

■日産メカニックチャレンジ活動

１．ピット活動
今回参加した６名の日産販売会社 TS は水曜日から、８名の日産愛媛自動車大学校学生は金曜日からチームに合流。それぞれ２チームの分れ、25 号車、26 号車を担当した。
ピットでの作業は基本的な車両及びピット清掃から始まり、アライメント調整、タイヤ管理、スパナチェックなどの他、エンジン調整、ハブボルト交換を行った。作業の合間のプロメカニックとのコミュニケーションの中で、レース車両と一般車両のメンテナンスの違いや、レースならではの作業等を聞き出していた。TS や学生からは 1 ミリ単位の作業が行われており、日常の業務や授業においてもとても参考になる、との声があった。

２．チームドライバーとの交流会
日産校学生と日産販売店メカニック(TS)が 25 号車、26 号車のドライバー7 人(名取選手欠席)、柳田監督と交流会を行った。「レーシングドライバーになったきっかけは」「思い出に残っている車はあるか」といった質問が挙がり、ドライバーは過去の経験を思い出しながら返答していた。学生や TS にとって、ドライバーのパーソナリティを知ることのできる貴重な時間となった。

３．マックメカニクスツールズ特別講習
今回は学生 8 名が講習を受講。日常授業で使用している工具について、その特徴、正しい使用方法等を学んだ。日頃何気なく使っている工具について使い方を誤っていたので、今回学んだことを生かし、正しく安全に作業したい、と学生からの声があった。

４．他チーム見学：21 号車 Hitotsuyama Racing を訪問し見学させていただいた。スーパーGT では現役ドライバーである監督の高木真一さん、川端伸太朗選手、エンジニアの加藤さんにご対応いただき、輸入車でレースを行うためのクルマやパーツの入手方法から、クルマとチームの特徴、チーム戦略の立て方まで様々なことをお話しいただいた。途中、山脇大輔選手やレースメカニックさんにも学生からの質問に答えていただくなど、和気あいあいとした他チーム見学となった。

■ゲストエリア
ゲストエリアにはロイヤルルーム、ピット裏テントの二つの拠点を運用した。
ロイヤルルームでは、TEAM ZEROONE のパートナー企業である全 6 社の内 3 社『ディーフ』、『マックメカニクスツールズ』、『Zoff』の商品を展示し、商品の魅力を来場されたお客様にアピールした。
お客さまは基本的にはロイヤルルームで過ごされていたが、ピッドウォークの時間になると ZEROONE グッズのうちわを片手にロイヤルルームを離れ、ピッドウォークを楽しまれていた。その後レースがスタートすると、8 割程のお客さまがテーブル席から、コースが良く見えるベンチシートに移動され、モニターと合わせてレースを真剣にご覧になっていた。
さらに、レース中盤と 25 号車のトラブル時にピットとの中継を行い、柳田真孝監督にレース状況など約 5 分程お話し頂いた。中継の告知を行うと、各回ほとんどのお客さまがベンチシートからモニター前に移動され、興味深くご覧になっている姿が印象的だった。

■次戦へ向けて
今大会は前回の富士戦での悔しい結果を晴らすべくチーム一丸となり取り組んだが、結果としては 25 号車 DNF、26 号車は 2 位表彰台獲得となった。しかし、26 号車は 3 戦連続のポールポジション獲得を記録し、Nissan Z NISMO GT4 の速さは表せたレースだった。決勝レースでのトラブルが相次いでいるため、NISMO カスタマーサポートチームと連携しマシンを見直し、次戦に向けて万全な状態で臨みたい。

以上
TEAM ZEROONE